# 高齢化で自治会解散、蛍光灯の交換もままならず…

**住民の高齢化で、地域が立ち行かなくなっている――地方ではなく、大都会・新宿の話だ。そこには、日本の将来を暗示するかのような問題が山積していた！**

「実際に何度か、孤独死の現場に立ち会ったことがあります。都は合い鍵すら預かってくれず、発見も通報もすべて住民がやらなければならないんです。あの死臭といったらないですよ、しばらくご飯がのどを通らないんです」

そう語るのは、NPO法人『人と人をつなぐ会』（以下『つなぐ会』）の平井貴氏（58）。同法人は、東京都新宿区にある戸山団地で、住民の高齢化への支援活動をおこなっている。

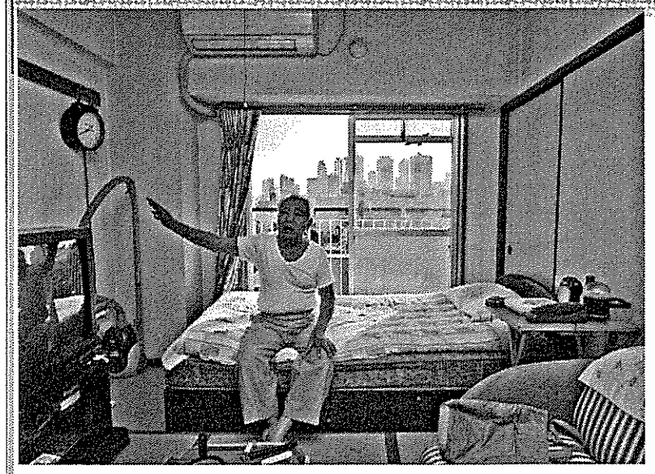
学生でにぎわうJR高田馬場駅から徒歩10分。東京都庁からも歩いて30分程度の場所に、戸山団地はある。正式名は『都営百人町三丁目・四丁目アパート』。全17棟・総戸数約2千300という、都心有数の大規模団地だ。この戸山団地が今、住民の高齢化問題で揺れている。昨年の調査で、百人町四丁目に暮らす住民の高齢者（65歳以上）の比率が、51・6㌫と過半数を超えたことが明らかになったのだ。

## 日本の近〝未来予想図〟!?

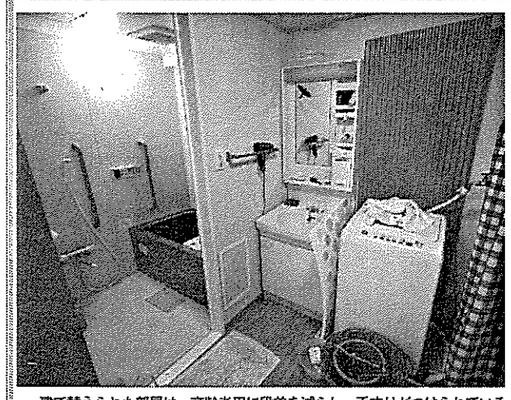
## せめて「孤独死」だけは防ぎたい！

# 東京・新宿に「限界集落」

# 都営団地ついに出現



戸山団地の1DKに暮らす住人。南向きの窓からは西新宿の高層ビル街が間近に見える



建て替えられた部屋は、高齢者用に段差を減らし、手すりがつけられている

住民の過半数が65歳以上

独り暮らしだけの問題ではない。高齢の夫婦では、防げたはずの突然死が防げないこともある。

「ともに70代の夫婦だったんですが、旦那さんが浴室で倒れたんです。ところが奥さんの耳が不自由で、すぐに気付かなくて。いつまでも出てこないので、行ってみるとすでに亡くなっていた、ということもありました」（平井氏）

また都営団地は、「家賃を抑える分、自分のことは自分で」の建前のもと、管理人を置いていない。そのため共有部分の蛍光灯などが切れた場合、住民が交換しなければならない。

「蛍光灯の交換からエレベーターの修理の要請まで、すべて住民で対処しなければなりません。お年寄りには厳しいですよ。かつては各団地の自治会がその役割を担っていましたが、戸山団地では自治会が実質、解散してしまった棟もあります」（新宿区社会福祉協議会・田宮一茂氏）

現在、団地の多くの棟では共益費を集め、管理を業者に委託するなどでこの問題をしのいでいる。しかし住民の高齢化が著しく、共益費集めに支障をきたす場合も多い。

「私は年に160本、電球を取り替えたこともありますよ。私も60歳ですが、若手に分類されますからね」（『つなぐ会』会員・渡辺修一氏）

さらに追い討ちをかけるように、団地住民に新たな問題が発生している。唯一の交通機関である路線バスの廃止を、区が検討しているのだ。

「昨年9月に減便され、1時間に1本の運行となりました。高齢者は、徒歩ではスーパーにも行けません」（『つなぐ会』代表・本庄有由氏）

戸山団地は坂の頂上にある。高齢者にはこの坂を上るのは、かなりの重労働だ。バスの廃止は、まさに死活問題なのだ。

これらの問題を解決すべく、住民がNPO法人を結成。社会福祉協議会などと連携しながら対策を立てている。

「孤独死防止に、ボタンひとつでコールセンターとつながるホットラインを設置しました。また今年8月には、団地の近くにある特別養護老人ホームで、地元の老人会の方々と住民の食事会を開きました」（前出・本庄氏）

一方、〝大家〟でもある東京都は、高齢者をむしろ団地に封じ込めようとしているのでは？　と思うような政策をとっている。都は平成2年から、老朽化した戸山団地の建て替えを順次、おこなった。

その際、部屋をバリアフリーに配慮した設計・間取りにしたが、同時に単身者・2人世帯向けの部屋を大幅に増やしたのだ。その結果、1DKや2Kなどの部屋が、団地全体の半数近くに達してしまった。

これでは子連れの若い家族が入れず、独り暮らしの高齢者ばかりが増えていく。

## 「建て替えで住民の交流が減少」の声も

記者は今回、1DKの部屋の様子を取材させてもらった。玄関を入ると左手に風呂と脱衣所、トイレがあり、廊下を抜けると3畳ほどの板張りの部屋がある。狭いが、ここがいちおう「DK」のようだ。その奥は、4畳半ほどの和室になっている。

「建て替え前は風呂もシャワーもなかったんで、それに比べればいい造りになったかな。ですが単身者ならまだしも、ここに2～3人の世帯が住む可能性もあるんですよね。トイレの仕切りがカーテンしかないから、気を使って用を足さなきゃいけないのはねえ……」（部屋の住人）

また、建て替え後の部屋の配置が、住民のコミュニケーションを奪ったとの声もある。現在、各部屋は、共有の外廊下沿いに一直線に並んでいる。

「以前は中央に階段があり、踊り場の左右に部屋が振り分けられて配置されていました。なので、玄関越しに隣の人の存在を感じ取れたんだと思います」（前出・田宮氏）

東京都に、戸山団地への対策について聞いた。

「東京都住宅供給公社と連携し、巡回管理人を送ってもらっています。また、若年世帯の入居を進めるため、空き部屋が出た場合、優先的に入ってもらうようにしています。建て替えについては、どの年代の人がどれくらい暮らしているかを割り出してから、間取りなどの計画を立てました。ですから年数が経つと、生活環境の変化が予想されることも考え、単身、あるいは2人世帯向けの間取りが多くなっているんです」（東京都 都市整備局 都営住宅経営部 住宅整備課長・菊澤道生氏）

現在、戸山団地の高齢者をケアするのは、50代後半以上の「高齢者予備軍」の人々。若い世代が入ってこなければ、システムが破綻するのは時間の問題なのだが……。

「つなぐ会」が設置した緊急ブザー。24時間、いつでもオペレーターにつながる

名古屋No.1 美容整形 美容外科 こいずみ形成ミーティア美容クリニック
ミーティア注目の治療ランキング
1 ボトックス注射 価格52,500円
2 プチ隆鼻 価格42,000円
3 二重埋没法 価格63,000円
お電話でのお問い合わせは 052-957-8600
スポンサーブログWeb女性自身で連載中!
世木みやび×小泉院長の心も肌も美しく
▶▶▶http:jisin.jp
ドクターコスメ通販も開始!